学校番号	325

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「現代の世界史　改訂版」　（山川出版社）						
副教材等	グローバルワイド最新世界史図表二訂版（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界の歴史の大きな枠組みと流れを学習して、歴史的な思考力を培うよう努力すること。さらに、世界の諸地域や各時代の文化の多様性と現代社会の特質をより広い視野から考察すること。そうして、２１世紀の国際社会の担い手としての自覚と資質の獲得を目指すこと。

２　学習の到達目標

世界の諸地域の政治・経済・社会・文化の特質や広がりや諸関係を、それらの歴史を通して、その形成過程から学ぶ。あわせて同時代の世界の地域間の交渉や交流をも視野に入れて、現代社会の特質を包括的に理解させる。各種の視聴覚教材、文献史料などを利用して理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界史に関する事象に興味・関心を持ち、自ら探求しようとする。	世界史に関する知識を用いて、考察・判断し、自分の考えを発言することができる。	世界史に関する様々な史料を収集するとともに、統計データから有用な情報を選択して、読み取ったりまとめたりすることができる。	基本的な事項、歴史的概念を理解することが出来る。
評価方法	授業の観察 課題やノートの提出 定期考査	授業の観察 課題やノートの提出 定期考査	授業の観察 課題やノートの提出 定期考査	授業の観察 課題やノートの提出 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第6章　帝国主義とアジアの民族運動　現代世界と日本　現代社会へ向かう世界	・19 世紀末に始まる高度資本主義と大衆社会について，現在につながるものとして概観させる。 ・普通選挙の実現による民主主義の進展と人口の移動について理解させる。 ・帝国主義時代の社会的特色を把握させ，アフリカを含め，地球規模で植民地化が進行していったことを理解させる。 ・植民地の抵抗運動と列強の対立について理解させる。	○		○	○	a:近代の欧米社会において起きた出来事、アジア地域の植民地化に関して、現代の社会との繋がりなどに関心持ち、意欲的に学習しようとする。 ｃ： 欧米諸国のアジア進出が激しさを増すこの時代に展開された国際的な動きに関心持ち、意欲的に学習しようとする。また、自分の考えを発言することができる。また、時代に関する資料を収集し、理解を深めるため活用している。 d:19 世紀に展開された様々な国際的な動きを広域的な視野を持って理解することができる。	定期考査 課題やノートの提出
2学期	第7章　二つの世界大戦 第8章　冷戦の時代	・ヨーロッパの国際関係を中心に，第一次世界大戦が起きた背景や戦争中におこったロシア革命、大戦によってもたらされた影響と，大戦後の国際秩序の問題点を理解させる。 ・第一次世界大戦後のアジアの民族運動の高揚とファシズム台頭の背景と展開を理解させる。 ・第二次世界大戦の背景と展開を把握させ、意義を理解させる。	○	○	○		a:2つの世界大戦及び冷戦期に展開された様々な国際的な動きに関心持ち、意欲的に学習しようとする。 ｂ：2つの世界大戦及び冷戦期に関する資料を収集し、学習内容を理解するために活用している。 c:2つの世界大戦及び冷戦期に関する資料を収集し、学習内容を理解するために活用している。	定期考査 課題やノートの提出
3学期	第9章　グローバル化する世界	・冷戦後のグローバル化の進展や環境問題について理解させる。 ・アメリカの動向や欧州統合，新興経済諸国について理解させる。 ・現代日本の現状を理解させ，課題を考えさせる。	○		○	○	a:冷戦後の世界で展開された様々な国際的な動きに関心持ち、意欲的に学習しようとする。また、時代に関する資料を収集し、学習内容を理解するために活用している。 c：グローバル社会における日本の役割と課題を見つけ出せる。 d：グローバル化に関わる学習内容に関して、現代社会に与えた歴史的影響や意義を理解している。	定期考査 課題やノートの提出

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。